

第2回富山市有機農業推進協議会次第

日時：令和5年8月17日（木）13時30分から

場所：大沢野会館別館402会議室

旧大沢野行政サービスセンター

1 開 会

2 報告事項

- ・これまでの取組み状況について

資料1

3 議 事

- ・今後の取組み（案）について

資料2

4 意見交換

（1）有機農業に対する農業者及び消費者のニーズについて

資料3

- ・農業者の意見について

- ・消費者のニーズについて（オブザーバーより）

（2）富山市において有機農業を推進する手法について

資料4

- ・計画の骨子について

- ・オーガニックプロデューサーの派遣について

5 その他

第3回富山市有機農業推進協議会

令和5年 月 日（ ） 時から

資料1 これまでの取組み状況について



令和5年5月8日
第1回富山市有機農業推進協議会



あいがもロボほ場



みのる式除草機ほ場



無農薬・無化学肥料栽培ほ場

令和5年5月～有機米・えごま栽培実証ほ場設置(見学自由)

資料1 これまでの取組み状況について



令和5年6月15日 有機米栽培機械作業実演会



令和5年7月19日 有機えごま栽培講習会及び作業実演会

資料1 これまでの取組み状況について



令和5年8月2日 富山市農業者協議会



令和5年8月4日 なのはな農協農業者協議会

富山市有機農業推進協議会検討スケジュール(案)

区分	令和5年												令和6年																							
	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
○協議会関係				◎ 第1回 5/8									◎ 第2回									◎ 第3回									◎ 第4回					
有機農業実施計画検討	●	-----	→	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	中間 報告	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	修正	-----	-----			
先進地視察(兵庫県豊岡市)				●	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	◎														
オーガニックビレッジ宣言																									●	-----	-----	修正	-----	-----	◎					
○生産拡大関係																																				
実証ほ場設置 ・水稲2か所、えごま1か所				●	◎	-----	随時自由見学・富山市農林水産部ツイッター等による広報活動																													
産地見学会及び栽培研修会				●	-----	-----	◎ 7/19	えごまで実施	-----							◎ 第2回	収穫時に実演	-----																		
機械デモンストレーション				●	-----	-----	◎ 6/15																													
有機JAS認定取得勉強会													●	-----	-----													◎	えごま・有機米 加工有機JAS認証含む	-----						
農業者との意見交換													8/2 8/4																							
○消費拡大関係																																				
既存イベントへの出品				●	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	◎ 5日	◎ 12日																			
有機米等の学校給食				●	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	◎ 8日																			
学校給食先進地視察(羽咋市)																									●	-----	-----	◎								
富山えごま油モニターアンケート																			●	-----	-----	◎	モニター飲用	-----	-----	-----	-----	-----	アンケート回収・集計	-----						
消費者アンケート																									●	-----	-----	◎								
○加工品開発関係																																				
海産物と有機農産物の加工品開発				●	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	◎								
有機酒米の日本酒開発				●	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	◎								
備考							土遊 野ほ 場にて						8/4 WS									ワン デー ジャッ クフェ スタ	中山 間地 域直 売イ ベント					有機 の日 学校 給食 利用						(案) 提示		

朱書き: 追加項目

資料3

農業者の意見

1. 富山市農業者協議会営農研修会

■日時:令和5年8月2日(水)10:00~12:00

■会場:富山市農協本店 大会議室

■次第:1 開会

2 会長挨拶

3 研修

(1)「有機農業(オーガニックビレッジ)の意義と事例について」

講師:富山市有機農業推進協議会 会長 酒井 富夫 氏

(2)「富山市における有機農業に関する取組について」

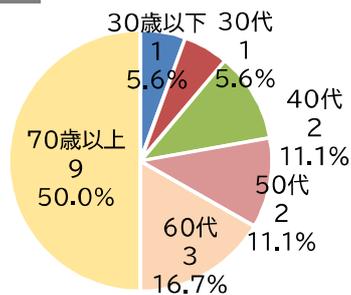
講師:富山市農業水産課 主幹 山口 拓志 氏

(3)意見交換

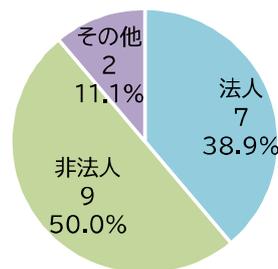
4 閉会

■参加者:協議会会員 18 名

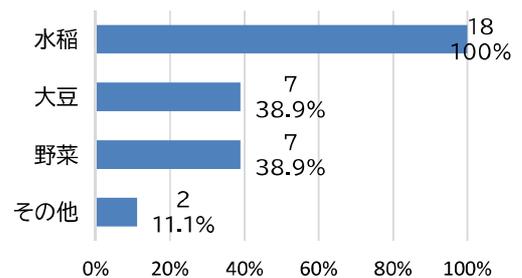
年代



営農形態



栽培品目



2. なのはな農協農業者協議会 研修会

■日時:令和5年8月4日(金)10:30~12:00

■会場:ゆ~とりあ越中

■次第:1 開会

2 会長挨拶

3 研修「有機農業に関する取組について」

(1)有機農業の取組紹介

講師:有限会社土遊野 河上 めぐみ 氏

(2)ワークショップ「有機農業に関する取組について」

4 閉会

■参加者:なのはな農協農業者協議会会員 13 名

	取り組みたい	取り組むことは難しい(不安材料)
理由	<p>安心・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の安全安心(農薬、化学肥料) ・安全安心な農産物をつくりたい ・体に良いもの、美味しいものを作りたい ・息子夫婦が現在取り組んでいる。身体に良い者、環境等、安全安心な生活を望むので(自分たちも、社会へも)できることをしたい <p>付加価値・差別化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付加価値 ・すぐく付加価値が上がって高く売れるのであればやるかも ・付加価値をつけて販売 → 六次産業化に取り組んでいる ・差別化 	<p>時代潮流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の流れ ・化学肥料の高騰 <p>環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続的農業のため ・環境問題解決(マイクロプラスチック、肥料のカプセル) <ul style="list-style-type: none"> ・自給自足で運営できる自然農法的を求む ・米を販売しているが「有機の米はないのか」と言われた時は少し考えた ・興味はあったが有機農業そのものがよく理解できなかった。 ・今日の研修で有機農法でもいろいろあることが分かったので、どういう形で取り組めるのか考えてみたい。
必要な対策(施策等)	<p>普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術を身につける ・農業削減の方策例の学び ・有機 JAS 認定を受けるための知識 <p>高値での販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機で栽培された作物を高く売れる仕組み ・販売先等の斡旋 ・安全な食物は自分で選ぶという食育(小さなころから意識づけする) 	<p>補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収量増加のための雑草対策に機械等導入の補助金 ・補助が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足の解消 ・土壌調査 ・エリア ・有機肥料の施用、費用低減(化学肥料並みへ)
		<p>経営状況・人手不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入の面 ・経営が不安定 ・今の経営では取り組むことは難しい ・労力、機械力への資金対応 ・人手不足 ・手間をかけられない ・別作業ができない ・販売余裕ない、経営能力ない → 六次化農業が必要か? ・作業工数の増(抵工数での増産に化学肥料農業で対応してきた) <p>栽培環境・地域の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲への影響 ・地域理解 ・まわりの田から用水から農業、化学肥料が入るのでは? ・防除等でドリフト(飛散)などの危険性がある <p>販路・販売価格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売価格は?(反収は?) ・費用対効果…販路に不安 ・販路、売り先、お金 ・出口(売り先等)が見えない ・有機農業(単価)と肥料について ・集落営農の法人(100%JA出荷) ・有機作物としての販売ルート <p>新しい取組への不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培方法がわからない ・資材が高い(肥料等) ・土壌の地力低下対応 ・2年間の化学肥料不使用 ・2年間の収入 ・新しい事に取り組むことがめんどうである ・除草・収穫について ・有機資材の確保 ・有機資材の購入には(量、単価?) ・気候変動への対応力 ・慣行栽培すらまだ未熟 <p>営農形態と合わない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積が大きく、その中で一部だけでやるのは難しい ・個別経営では成り立たない ・生産地が限定される <p>地域単位での作付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック単位で有機をやる施策 → 旗振り → 行政なのか、農業者で連携するのか? ・地域をまとめる必要があるのでは ・地域での取組み <p>技術普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会、マニュアル ・栽培技術を身につける <p>人手不足の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業人員の確保 ・機械化体系の確立 <p>販路の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売ルート確立 ・安定的な販売先の確保、単価、量 ・販売先等の斡旋 ・販路の確保 ・スーパー等有機食料の差別化 PR <p>人手不足の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県又は市からの補助金 ・環境対策であれば農地を計画的に減らして落葉樹で植林していくなども選択肢では?(農家が足りず耕作できない農地が絶対増える)

【8月4日(金) なのはな農協農業者協議会 研修会】意見まとめ

	取り組みたい	取り組むことは難しい (不安材料)
理由	<p>安心・健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心な米 ・おいしい米を作る ・体に良い ・アレルギーの減少 <p>価格・経費削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格は自由 ・販売価格が高い ・肥料代の縮小 ・経費が少なくなる (肥料・除草剤等) <ul style="list-style-type: none"> ・土地の活性化 ・循環させる ・昔から続いている 	<p>面積・人員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地面積が少ない ・面積と人員 ・年齢、高齢化 ・体力的な問題 <p>栽培環境・地域の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業用水が冬季完全に止められる ・無農業にできる状況が整っていない ・においへの苦情 (住宅地から) <p>新しい取組への不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業栽培そのもの分からない ・慣れていない ・農法が変わる ・新しい取組みへの不安 <p>収量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量が取れない ・収量 ・輪作は無理 <p>価格・コスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営が成り立たない ・価格が安いのではないか ・価格 ・農機具が高い ・コスト <p>手間・労力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労力と合わない ・手間がかかる ・雑草対策が難しい <p>営農形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい農家は農協を頼る ・農家は一経営者という感覚がない ・農薬等買取がある
必要な対策 (施策等)	<p>普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やり方を知りたい ・どのような肥料(有機)がいいのか教えてほしい ・担い手を育成 ・徹底的な指導 <ul style="list-style-type: none"> ・JAS 認定(2年間)のネックを取る 	<p>販路の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機米が欲しい人は誰? → 販路確保 ・販路の確立 ・高く買ってくれる社会 ・富山有機農産物のブランド化 <ul style="list-style-type: none"> ・どのような基準があるのか教えてほしい <p>地域やJA との一体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体での取組 → モデル化 ・JA での有機農産物への取組 ・機械化

農業者にも有機農業をやりたい・興味がある人はたくさんいる



- ①有機農業栽培を見る機会、知る機会を増やすこと
- ②JA 協力のもと地域で取り組む機運をつくること が重要

資料4 計画の骨子について（素案）

（1）目標（※令和5年度の国事業申請時の目標を一部変更）

有機 JAS 取組面積拡大	R3 :	68.8ha→R10 :	75.8ha (+7ha)
米		68.8ha→	70.8ha (+2ha)
えごま		0ha→	5.0ha (+5ha)
有機 JAS 取組み農業者の増加	R3 :	5人→R10 :	8人 (+3人) ※
米		5人→	6人 (+1人)
えごま		0人→	2人 (+2人) ※
有機えごま販売数量（実換算）	R3 :	0kg→R10 :	1,500kg ※

（2）生産段階の取組み

- ①クラウドファンディングによる CSA 主体のサポート組織の設立（R10 目途に設立）
・イメージは図1
- ②有機米・有機えごま栽培技術研修会（R6 以降期間中継続開催）
- ③有機栽培用機械等の貸出事業の検討（R6～7 に導入、有機農業実践者へ貸出）
- ④有機 JAS 認証取得勉強会の継続開催と取得経費への支援（R6 以降期間中継続開催）
- ⑤有機米栽培用機械開発支援（R6 以降期間中継続開催）
・ドローン等を活用した物理的除草対策など

（3）流通・加工・消費段階

- ①有機米等学校給食利用（R6 以降期間中継続開催）
- ②有機 J A S 認証の加工施設の検討（有機えごま栽培面積を見ながら R7 に導入？）
・有機えごまオイル
- ③海外輸出・既存イベント等への出品等販路の拡大（R6 以降期間中継続開催）
・えごま6次産業化推進グループ等との連携

（4）資金計画

- 国の補助充当金額がベース
- R6～7年度・・・8,000千円
- R8年度以降R10年度まで・・・国費なしのため、一般財源や資金等の確保が必要
※市内部の意思決定が必要

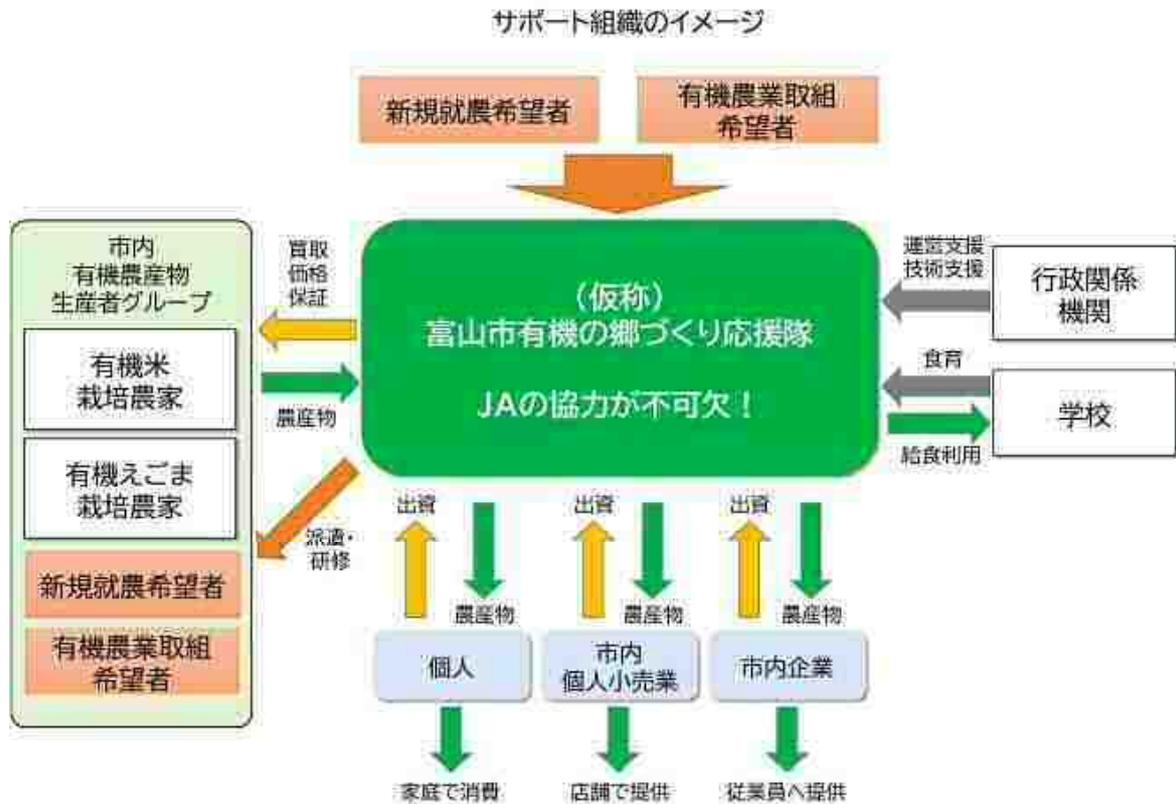


図1：サポート組織のイメージ

○オーガニックプロデューサーの派遣について（→活用するかしないかは協議会の自由）
6月29日に本市へのオーガニックプロデューサーの派遣について協議（WEB）

- ※本市において有機農業を進めるにあたってのオーガニックプロデューサーの所感
- ・中核市（人口40万人）という状況は有機農産物の地産地消の取り組みに向いている
 - ・消費者との距離の近さから「体験」に価値を持たせやすい
 - ・環境との関わりの深い有機農業の価値を農業者・消費者が理解する場が必要 など

派遣をお願いする場合は、希望テーマや知りたいことを挙げる

オーガニックプロデューサー一覧（別紙）

事務局（案）

- ①環境との関わりの深い有機農業の価値理解を促進するための助言
- ②慣行農法からの一部転換など技術的なブレイクスルーのための助言を要望し適切な方を派遣いただく。

意見交換シート

都道府県	富山県	
市	富山市	
人口(R2国勢調査)	413,938人	
5年後に目指す目標	令和6年度→令和10年度	
有機農業の面積拡大	有機JAS認証取得面積 R3:68.8ha→R10:70.8ha (米) R3:0ha→R10:5ha (えごま)	
有機農業者数の増加	有機JAS認証取得有機農業者 R3:5人→R10:6人(米) R3:0人→R10:2人(えごま)	
有機農産物販売量の拡大	有機えごま販売数量 R3:0kg→R10:1,500kg(実換算) 単収30kg	
取組内容	ア 生産段階	
	(1)新規参入支援・人材育成	
支援組織	①クラウドファンディングによるCSA主体のサポート組織の検討(設置) (目的) 有機農業への移行期間のリスク軽減 買取価格保証による農業者の収入の見える化 新たに有機に参入する希望者の相談窓口	(課題) 農産物販売が含まれるためJAの協力が不可欠 運営主体と形態(NPO法人等)の検討が必要 有機農業推進協議会との役割の違い
	(2)技術普及	
勉強会	②有機米・有機えごま栽培技術研修会の継続開催 (目的) 慣行農法から一部有機農業への転換促進	(課題) 県有機農業アカデミーとの重複
	(3)生産拡大	
機械等導入	③有機栽培用機械等の貸出事業の検討(実施) (目的) 慣行農法から一部有機農業への転換促進	(課題) 農業者のニーズの有無 サポート組織での保有 貸出用有機農業用機械の選定
有機JAS認証	④有機JAS認証取得勉強会の継続開催と取得経費への支援 (目的) 慣行農法から一部有機農業への転換促進 有機えごまの創出	(課題) 農業者のニーズの有無 県事業との重複 有機JAS認証機関の県内設置も必要
その他	⑤有機米栽培用機械開発の支援 (目的) 慣行農法から一部有機農業への転換促進	(課題) 機械メーカーの選定 ドローンの物理的除草利用の可能性(長期化?)
	イ 流通・加工・消費	
	(1)流通	
	①有機米等学校給食利用の促進 (目的) 一定量の販売先の確保 食育の推進 消費者理解の促進	(課題) 生産量の確保 集荷体制の構築(JAの関与) 国庫交付金終了後の市費負担(行政の意思決定)
	(2)加工	
	②有機JAS認証取得の加工施設の検討(有機えごま) (目的) 有機食品としての価値の向上	(課題) 補助額の限度 補助残の確保 商品の販路の開拓・確保
	(3)消費	
	③海外輸出・既存イベント等への出品等販路の拡大(えごま6次産業化推進グループ等との連携) (目的) 有機農産物の販路の拡大	(課題) 商品の偏り(米とえごまのみ?) 加工品の対応 ターゲットとする消費者(市内?県外?海外?)

令和5年度 オーガニックプロデューサーの情報（予め選定が決まっている者）

氏名	所属・役職	専門分野	これまでの実績と期待される活動
太田 敏子	株式会社ナチュラルハウス 販売部	販売、 マーケティング	ナチュラルハウスのバイヤーであり、自然栽培・自然農法系の生産者とのつながりが多く、フェアを展開などしている。
佐々木 一信	オイシックス・ラ・大地 株式会社 プロダクトセンター本部	販売、 マーケティング	オイシックスにて販売・マーケティング・商品開発等に携わり、20分以内に主菜と副菜が簡単に作れるミールキット「Kittoisix」の開発に関わる。 消費者のニーズやライフスタイルを見極め、柔軟に、商品開発・製造・物流をマネジメントする。統合的なマネジメントの視点から、新たなビジネス創出が期待される。
新田 美砂子	有限会社コートヤード代表	販売、 マーケティング	生産者と消費者・実需者を結び、「女性の視点と現場経験を生かした質の高い食作り」に取り組む専門家。「食」の目線から、実現可能性の高いオーガニックビジネスを提案、実施までを支援する活動が期待される。R4年度山形県川西町のオーガニック産地づくり推進事業にて販路拡大のコンサルティングをおこなう。
仲野 真人	株式会社食農夢創 代表取締役	販売、 マーケティング	アグリビジネス分野の業界調査や全国の6次産業化に取り組む優良事例の調査・分析を行うほか、6次産業化優良事例表彰などの表彰事業も手掛け、全国の農業法人・農林漁業者および2次・3次事業者との幅広いネットワークを構築しており、有機農産物の販路拡大へのノウハウ提供が期待される。
高橋 一也	warmerwarmer 代表	販売、 マーケティング	地域伝統野菜の販売とプロモーション、ブランディングで、高級スーパー卸や美術館・アーティスト・企業とのコラボレーション事例、メディア出演多数の実績。元ナチュラルハウス取締役で検査員資格もあり知見を活かした地域資源の付加価値創造やアドバイスなどが期待される。
井本 喜久	株式会社The CAMPus BASE 代表取締役	販売、 マーケティング	オンライン農業塾「コンパクト農ライフ塾」を運営、1農家で1000平米で1000万が稼げる農業を追求しており、複合的な農業を推奨している。塾生は1000人を超え、オモシロ農業のカリスマとしてファンも多く、そのノウハウを地域に提供することでブランディング・マーケティングが強化されることを期待する。
高橋 博之	株式会社 雨風太陽 代表取締役	販売、 マーケティング	東北食べる通信の発行、産直SNSポケットマルシェの経営を行っており、産直という領域におけるプロフェッショナルであり、地域に派遣することによって新たな販路をもつきっかけとしてほしい。
藤野 直人	株式会社クロスエイジ 代表取締役	販売、流通	九州において10年以上農産物取引を仕事としており、自社でも小売店を展開するなど精力的に活動しており九州における地域性や物流網を理解しながらオーガニックエコ分野においてノウハウを提供する支援活動が期待される。
高橋 史彦	モアーク食材開発株式会社 代表取締役	販売、流通	フランス料理の経験、ヨーロッパ食材の専門商社で営業を担当したのち、モアーク食材開発株式会社での有機農産物・加工品流通に携わり、大田市場を介した販路拡大への支援が期待できる。
栗山 功	株式会社eff 代表取締役	販売、流通	創業1935年の仲卸、築地の三勇青果にて市場内に留まらず全国各地へ自ら足を運び仕入れをおこなう経験を持つ。豊洲市場を介して首都圏の有名シェフや飲食店への地域食材への流通販売に多数実績を持ち、実践拠点等の有機農産物の販路拡大に資する支援が期待できる。
加藤 百合子	株式会社エムスクエア・ ラが創業者・代表取締役 社長	販売、流通	野菜バスという共同物流を行う会社の代表者でもあり、オーガニック物流の新潮流を作る可能性がある。
吉岡 隆幸	合同会社SOZO 代表	販売、流通、 地域連携	農林水産省6次産業化中央プランナー。全国各地で、食・観光を起点とした地域活性化をプロデュース。首都圏を中心に、飲食・小売、仲卸とのネットワークも広い。特定の地域において、地産地消を進めながら、地域外からの観光ニーズも拾っていく販路を拡大手法による支援活動が期待される。
小野 淳	特定非営利活動法人 くにたち農園の会 理事 長	地域連携	貸し農園・市民農園の運営、開園サポートや、農園をフィールドにした消費者・実需者等への理解増進事業の展開において多数実績を持ち、農泊事業に関しても専門的知見を有することから、地域内での有機農産物の付加価値向上とマーケットの拡大を狙う支援が期待できる。
徳江 倫明	フードトラストプロジェ クト代表	地域連携	H31年度の本事業にて、千葉県いすみ市における学校給食でのオーガニック農産物導入事例について、複数の実践拠点より具体的に学び取り入れたいという要望があり派遣を行なった。学校給食への導入への関心が全国的に高まりをみせるなか、他の実践拠点等への最新に知見の提供を通じた支援が期待できる。
小口 広太	千葉商科大学 人間社会学部准教授	地域連携	地域社会学、食と農の社会学を専門とし、有機農業や都市農業の動向に詳しく、日本有機農業学会事務局長の経験を持つ。フィールドワークに裏付けられた学術的で広範な知見により、有機農産物の安定供給体制の確立手法と、地域社会のサステナビリティ構築ビジョンを架橋する視野をもった提案が期待される。
林 鷹史	生きもの認証推進協会 共同代表理事	生物多様性	“ピオアナリスト”として自然と共生した里山や農業の保存活動を行う。生物多様性を測る「生きもの調査」を通じて企業活動を評価する取組を実践しており、「生物多様性」や「環境保全」をキーワードに、農家と消費者・実需者とのつながりを創出する活動が期待される。
萩原 紀行	のらくら農場	生産技術	長野県佐久穂町。多品目（中品目）の有機野菜で農場単体で8000万円、仲間と組むグループ全体では1倍を超える売り上げを誇る。施設設計に基づいた肥培管理などの生産技術、細やかな心配りに基づいたチームビルディングに定評がある。個性的なレトルトのスープの開発にも成功している。小川町の金子美登氏の弟子。
西 歩	あゆみ農園	生産技術	ICT農業実践者。和歌山県岩出市在住。IT企業を退職し就農。自家施設に独学で複合環境制御技術を導入しパブリカを生産。那賀地域の農業士で、那賀4Hクラブにおいて西氏を中心に低コストな環境制御システムの製作に係る研修会を開催するなど、実践者として地域を牽引。

川田肇	株式会社川田研究所 代表取締役	生産技術	土壌分析の専門家として、分析結果に基づく知見をセミナー等を通じて産地に提供する。地域特性や産地の方向性に見合った土壌改良や栽培戦略を考える機会をあたえ、データに基づく合理的な産地形成の基盤づくりに寄与することが期待される。
館野廣幸	NPO法人民間稲作研究所 代表	生産技術	千葉県いすみ市において、有機水稲栽培の技術提供をおこない、安定した栽培技術と供給体制の確立に大きく寄与したことから、給食への有機米全量導入という全国初の事例を生み出すことに貢献した実績を持つ。慣行農法からの一部転換等を含め、技術的なブレイクスルーの横展開が期待される。
橋本力男	堆肥・育土研究所	生産技術	肥料価格の高騰を受け、全国的に地域内資源循環への関心が高まるなか、早くから地域資源を最大活用した良質な完熟堆肥の製造技術と、その必要性の提案をおこなっており、またコンポスト学校で多くの生徒を輩出するなど、再現性の高い技術が各地で応用されている。各地の実践拠点等の横展開が期待される。
木嶋利男	伝統農法文化研究所	生産技術	農学博士として野菜栽培や土づくりの基礎について広範な知見を持ち、令和3年度の本事業で制作した講義動画は視聴者の高い支持を受け10万回近く再生されている。令和4年度に神奈川県相模原市の有機農業産地づくり推進事業がおこなった「農業・化学肥料を減らすために」と題した講演会では慣行農家も多く参加するなど、地域の慣行農業を巻き込んだ知見の提供が期待される。
千葉康伸	株式会社 農桑 代表取締役	生産技術、販売、流通、 地域連携	有機農業者として常時研修生を受け入れる傍ら、NPO法人有機農業参入促進協議会代表、アグリイノベーション大学校専任講師、丹波市立農の学校特別顧問なども務める。 ・グリーンな栽培体系の転換サポート事業における、かながわオーガニックコミュニティ協議会による有機農業マニュアルづくりセミナーを主幹 ・有機農業産地における新規就農者への栽培技術向上とグループ栽培・販売戦略策定・商談サポート等のスタートアップ支援業務の受託（千葉県いすみ市）□
西辻一真	株式会社マイファーム 代表取締役	販売、流通、地域連携、 教育	・有機農業産地における販売戦略コンサルティング業務の実績 北海道豊浦町（夏秋イチゴ）、千葉県いすみ市（新規就農・移住支援） ・都道府県委託事業における経営塾の運営ならびに商談会の開催（大阪・奈良・千葉） ・SHARE THE LOVE for JAPAN プロジェクト新規就農の有機農業者への販売支援（年間10名〜）
種藤 潤	一般社団法人オーガニック ビレッジジャパン事務 局長	地域連携、 マーケティング	有機の日本酒を応援する「ピオサケプロジェクト」統括担当、オーガニック食品情報を掲載するフリーペーパー編集長も務める。 ・国際オーガニックEXP2017 オーガニックヴィレッジゾーン（展示商談会）の企画運営 ・健康博覧会2019「オーガニック&ナチュラル・プロダクツ展」（展示商談会）の企画運営 ・健康博覧会2023「オーガニックヴィレッジゾーン」（展示商談会）の企画運営
白土卓志	株式会社いかす代表取締 役	生産技術、地域連携、教 育	神奈川県平塚市にて生産農場と並行しスクール事業も運営。炭素循環農法の生産技術は書籍や専門誌等で多数掲載されているなど実績を持つ。 ・有機農業産地における新規就農者への栽培技術向上とグループ栽培・販売戦略策定・商談サポート等のスタートアップ支援業務の受託（千葉県いすみ市）
松本直之	松本自然農園／農Tube委 員会 代表	生産技術、地域連携、 マーケティング	愛知県で少量多品目の有機栽培のかたわらウェブサイトやYouTubeを活用した情報発信を早くからおこない、農業YouTuberの先駆けとして自身のプロモーションのみならず、生産者自身のウェブを通じたブランディングの提案をおこなってきた。マーケティング視点からの提案やアドバイスも可能。
高橋勉	日本オーガニックアンド ナチュラルフーズ協会 理事長	販売、流通、地域連携	日本最大級の有機JAS認証機関として、認証の基礎や取得方法、メリットデメリット、また輸出のトレンドや世界の有機マーケットの潮流等について、幅広い知見の提供が可能。

※産地の要望に応じて、課題に対する高い専門性を有するオーガニックプロデューサーを派遣できるように、必要に応じて専門家の追加を検討